

新・奥の細道

山形西ルート

③

紅花・葉山ロマンのみち

Benibana・hayama-roman-no-michi



山形県

周辺のアクセスガイド

・山形空港よりタクシーで15分。JCT山形から榎岡駅まで40分。

・山形空港よりタクシーで10分。JCT左沢から榎岡駅まで15分。

・山形空港よりタクシーで10分。JCT左沢から榎岡駅まで15分。



観光・宿泊のお問合せ	村山市観光協会 〒995 村山市中央一丁目3-6 ☎0237-55-2111
	河北町観光協会 〒999-35 河北町谷地字みどり町3-2 ☎0237-72-3787
交通のお問合せ	JR榎岡駅 〒995 村山市榎岡新町一丁目10-1 ☎0237-55-2011
	JR寒河江駅 〒991 寒河江市中央一丁目2-3 ☎0237-44-5566
コースのお問合せ	村山市商工観光課 〒995 村山市中央一丁目3-6 ☎0237-55-2111
	河北町商工観光課 〒999-35 河北町谷地字81 ☎0237-73-2111
	山形県環境保護課 〒990 山形市松波2-8-1 ☎0236-30-2207

表紙の写真は、河北町の紅花畑

GUIDE

みどころ案内

葉山大円院

Hayama-daienin

葉山は、修験道の開祖といわれている役ノ行者によって開山され行玄が役ノ行者の命を受けて大宝2年(702年)この山に入り、葉山大円院を開基し、日本第一の霊場と崇めたということである。

その後、本堂を焼失し、寛文11年(1667年)に再建され、その規模は間口十七間四尺、奥行七間四尺の堂々たる建物で昭和29年までありました。最も隆盛をきわめたのは、第62代住職舜營のころ(1673~1699年)で、山上に十二坊、末寺五十余ヶ寺をもったといわれているが、今はそのおもかげもなく、本堂は葉山への表参道である岩野に再建されている。

大円院は天台宗の寺で、正しくは医王山金剛日寺大円院といい、当時本堂は葉山のほぼ中腹、標高800メートルのところにあったが昭和30年10月に落慶式を挙げて、遷座を完了したものである。



葉山大円院

ご本尊は不動明王となっている。また、大円院には、日本一といわれる等身大の「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿がまつられている。例大祭は春秋の二回催され、内外の信者を集めている。とくに、春の例祭には竹の子汁、秋はなめこ汁が振舞われ、参拝の人々は山の幸を満喫している。

中村遺跡縄文公園

Nakamuraiseki-jomon-koen

中村遺跡は、千座川右岸の微高地に立地し、東西約250m、南北150mの範囲をもち、出土遺物は、縄文時代中期中葉から後期中葉、晩期中葉に区分される。石器は、狩猟具の石鏃・加工用具の凹石と磨石がバランスよく出土された。このことは、季節的な集落でなく、ある一定期間にわたって定住していた集落であると推定されている。

いっぽう、縄文公園は、富本地区民が、中村遺跡に残された先人の文化遺産を長く保存・伝承するため中村遺跡保存会を結成し、3カ年かけて、竪穴式住居3棟を復元整備したものである。

1号住居は長径3.9m、短径3.6mの大きさに複式炉をそなえた三本柱の住居である。住居の大きさ、柱の位置、炉の位置、方位などは、発掘調査によって確認された事実にもとづいて復元している。



中村遺跡縄文公園

2号住居は長径6.3m、短径5.3mの大きさに複式炉をそなえた三本柱の住居である。発掘調査で確認された9棟のうち最大の住居である。公園の立地条件により、炉の向きを出土した状態から90°回転させて復元している。

修験者の霊山として盛えた葉山の裾野を進むと葉山大円院がある。ここには日本一といわれる等身大の「見ざる、言わざる、聞かざる」の三猿がまつられている。ここから下ると村山平野が一望できる中村遺跡に着く。さらに南に進むと紅花で栄えた町、河北町に辿り着く。ここには、紅花で豪商を成し上げた堀米家(紅花資料館)がある。紅花に関する資料や4つ蔵があり、紅花商人として財をなしてきた跡が見える。

3号住居は発掘調査で発見された9棟の住居跡の中には四本柱は発見されなかったが、1号、2号住居復元作業にあたった保存会会員の創意工夫により四本柱の竪穴式住居が復元されている。

紅花資料館(旧堀米邸)

Benibana-shiryokan

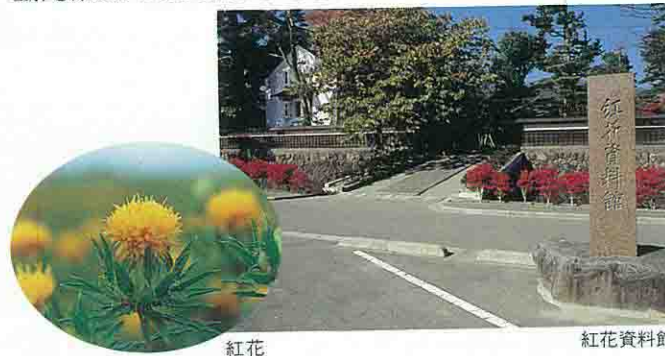
この地方は、江戸時代から明治初期にかけて、最上川舟運によってもたらされた京文化を色こく花開かせながら、米と紅花で栄えたところです。

堀米四郎兵衛豪は、代々名主をつとめ、江戸中期より、農地の集積を計ると共に、紅花商を営み財をなしてきました。また、江戸末期には167名の農兵を組織するなど、地域の治安にも貢献してきました。

昭和56年に、10代目当主より、本資料館の敷地・建造物・古文書など地域の文化、産業の向上のために、河北町に寄贈されました。

邸内の敷地面積は、10,269平方メートル(約3,106坪)あり、武者蔵・御朱印蔵・長屋門・庭園など往時の姿を保存するため、修復整備をおこない、紅花資料館として開設したものです。

最上紅花や、いろいろな資料を通して、地域の歴史と文化についての理解を深めることを目的として展示公開しています。



紅花

紅花資料館

谷地舞楽

Yachi-bugaku

谷地の舞楽は、谷地八幡宮の神職をつとめる、林家が伝承する舞楽である。

林家の祖「林越前政照」は難波四天王寺の楽人であった。

平安初期の貞観2年(860)山寺開創のおり僧円仁(慈覚大師)に随従して羽根に下り山寺に舞楽を司どったと伝えている。

平安中期には、東北最大の古刹慈恩寺と江戸期より谷地八幡宮にも舞楽を司どり今日に至っている。



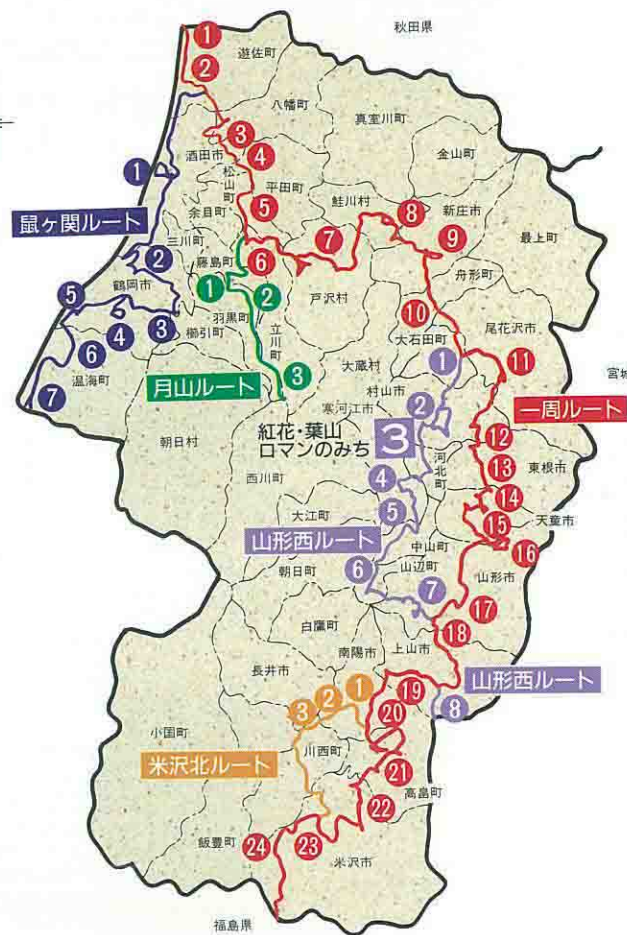
舞楽「陵王」

伝承の舞楽の最大の特徴は、早く地方に下ったため貴族による改作を殆ど受けておらずより古代の様式を多く伝えていると評価されている。

なお、谷地の舞楽は、毎年行われる谷地どんがまつりの一部として9/14・15の両日奉納されている。

YAMAGATA MAP

東北自然歩道(新・奥の細道)ルート図



“新・奥の細道”とは

自分の足でゆっくり歩きながら、森や川、野鳥や虫など豊かな自然にふれあい、また、その地域の特色ある文化や歴史と親しむためのみちです。

“新・奥の細道”は正式には東北自然歩道といえます。この自然歩道は、一日で歩ける程度の遊歩道を1つのコースとして、コースの間をバスなどでつなぎながら東北を一周する長距離自然歩道です。そして、この道は福島県白河を起点とし、宮城、岩手、青森、秋田、山形の順で経由して福島県郡山に至るルートになっています。

また、この“新・奥の細道”は東北を一周するルートの他に、景観の優れた地域や名勝地等に向かうルートがあります。県内でも、月山ルート・鼠ヶ関ルートなど4つのルートがあり、山形県内のルートをあわせた総延長は45コースで469kmとなっています。

この“新・奥の細道”を楽しむために

1. コースのみどころ、地形、距離をあらかじめ調べて、余裕のある日程を組みましょう。
2. 歩きやすい服装で、荷物は最小限にとどめましょう。
3. 天気予報に注意して、天気のいい日を選んでゆっくり歩きましょう。この3つを守り、友人と、家族と、さあ出発!

おねがい

- ・ゴミは捨てないで持ち帰りましょう。
- ・たばこの投げ捨てや、山火事には十分注意しましょう。
- ・案内板や休憩所はみんなのもので、大切にしましょう。
- ・美しい自然は、人間だけのものではありません。草花や虫たち、小鳥たちのためにも自然を汚さないようにしましょう。
- ・そして、美しい自然を後世まで伝えていきましょう。

このみちは、年金積立金選元融資を受けてつくられました。